



川又米利インタビュー

2018年ドラゴンズの展望と課題について語る

川又米利さんは一九八〇年代、九〇年代にプロ野球の中日ドラゴンズで活躍し代打の切り札として知られ、八八年にはセ・リーグ優勝に貢献した。引退後には、ドラゴンズのコーチやテレビ番組などの解説者としてさまざまな角度から野球界を見てきた川又さんに今年のドラゴンズについて聞いた。

――五年連続Bクラスとドラゴンズの低迷の原因は。

川又 投打ともに期待されていた選手が手応えのある働きを見せなかったことですね。特に信頼できるセットアッパー・クロウザーが決まらない状態が続いたことは大きかったと思います。リードしていても終盤で逆転されてしまい逃げ切れなかった試合も多かったですね。

――その問題は克服されつつあるとお考えでしょうか。

川又 昨シーズン中盤回りか

ら、伸び悩んでいた選手の成長が見られるようになり、克服しつつある状況だと思います。力をつけて這い上がってきていますから、ドラゴンズが長年目指しているスタイルに近づいています。あとは若い選手たちが与えられたチャンスを掴み、ドンドン試合に出場していくことができれば、チームも軌道に乗っていきえるでしょう。低迷している時期というのはチームの転換期でもあります。

――今シーズンから松坂大輔が加入しましたが、その影響（良い

面・悪い面）は？

川又 まず、お客さんは増えています。お客さんが入っている中で試合をするのと、少ない中での試合とでは、選手の気持ちがかかなり違ってきます。それはキャンプでも同じです。選手にとっては、お客さんの応援がすごく力になるのです。それだけでも大きい。良い刺激になっています。

ここ（三月上旬）までは良い形でできていると思います。ただ松坂のコンディションが気かりではあります。痛めているのが肘でなく肩ですし、これまでの三年間ほとんど仕事をしていません。未知数の状態ですね。シーズンを通して松坂らしさを発揮してもらえればと。

――昨年ホームラン王を獲得したゲレーロが退団しました。新戦力の評価はいかがですか？

川又 ビシエドにしてもこの三年間フルに働いたことがないですが、日本の野球にも慣れてきていますし、今年も主軸として期待しています。ゲレーロが抜けた穴を、新外国人選手も含めてどう埋めて

いくかでしょう。FAで獲得した大野奨太もここまで順調にきていると思います。打撃の面でも勝負強さを発揮していますし、捕手として投手の良いところをいかに引き出していけるかです。シーズン一四三試合のうち一〇〇試合以上を同じ捕手で戦って行けるのが理想的な形だと思いますので、大野奨太には期待したいです。

――ドラフトで入団した新人選手の中での注目選手は？

川又 鈴木博志投手は、球は速いが高めに浮いてしまうことがある。しっかりと低めに投げないとプロでやっていくには厳しいと思います。オープン戦などで自信をつけていくことも大切でしょう。

――投手陣は新外国人選手ジローの加入以外あまり変わっていないように思います。長いシーズンを戦い抜くにはいささか不安ですが、投手陣を打者目線からどう見ますか？

川又 長いシーズンを勝ち抜いていくには、絶対的なセットアッパーとクロウザーの存在が不可欠です。そういう意味でも投手陣の

立て直しが必要でしょう。小笠原慎之介、鈴木翔太、柳裕也、笠原祥太郎など。若い投手陣も出てきています。そして吉見一起、大野雄大、又吉克樹、新加入のジーが安定感のある働きを見せてくれれば、投手陣の層は更に厚くなっていくと思います。僕の現役時代は、槇原、桑田、齋藤投手の速い球に手こずりました。それは変化球を組み込まれると対応が難しかったからです。そういう意味で小笠原には期待していますが、先発投手としては球数が多いのが少し気になります。

――今年の注目選手は？

川又 福田永将と高橋周平です。この二人が主軸になれば、打線に厚みが出てきます。高橋は七年目ですが、持ち味でもある力強いスイングができるようになってきています。昨年新人王に輝いた京田陽太にも注目しています。京田の伸びしろはまだ大きいです。レギュラーとしてこれからもっと成長していきけるはずです。

――母校、早稲田実業の後輩である清宮が日ハムに入団しました

が、彼はプロ野球のスターになれると思いますか？

川又 ものが違いますね。キャンプでケガをして二クール休んでも、フリーバッティングで長打を出す。オーラもある。プロは甘くありませんが、一年間我慢して使ったら結果が出てくるようになるかと思っています。

――故星野監督との思い出を。

川又 グラウンドでは大変厳しい監督でした。気の緩みやつまらないミスは、これでもかというほど叱られました。試合中に「帰れ！」と言われたことも。「二度と使わん！」と叱られた回数は数え切れません。だけどその厳しさの向こうには選手を思う何十倍もの愛情と優しさがある監督でした。ミスをした翌日も黙って起用してもらえましたしね。

「飴と鞭」と言いますが「鞭・鞭・飴」でした。僕の現役引退記者会見にも同席してくださいました。嬉しかったです。星野監督の下で野球ができたことは、一生の宝物です。

心から感謝しています。